

注3

大学番号：私469

[平成24年度設置]

計画の区分：研究科の設置

注1

認可

甲南女子大学大学院 看護学研究科

注2

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 甲南女子学園  
平成24年5月1日現在

作成担当者

担当部局名 看護リハビリテーション学部事務室

職名・氏名 事務長・吉井 貴子

電話番号 078-413-3722

(夜間) 078-413-3722

F A X 078-413-3742

e-mail nurspt@konan-wu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は認可時基本計画書の「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

認可時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には認可時の旧名称を記載し、その下欄に  
( )書きにて、現在の名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部

(□□学部)

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学新設の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

※「留意事項実施状況報告書」の場合は、表題を修正してください。

3 大学番号の欄については、平成24年3月12日付事務連絡「大学等の設置に係る設置計画履行状況報告書等の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目 次

1	調査対象大学等の概要等	-----	1
2	授業科目の概要	-----	5
3	施設・設備の整備状況、経費	-----	8
4	既設大学等の状況	-----	9
5	教員組織の状況	-----	11
6	留意事項に対する履行状況等	-----	17
7	その他全般的事項	-----	18

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人 甲南女子学園

## (2) 大学名

甲南女子大学大学院

## (3) 大学の位置

〒658-0001

兵庫県神戸市東灘区森北町6丁目2番23号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	届出時	変更状況	備考
理事長	( マツシタ マサユキ ) 松下 正幸 (平成13年7月10日)	-	-
学長	( マツバヤシ ヤスアキ ) 松林 靖明 (平成23年4月1日)	-	-
看護学研究所 委員会委員長	( ツムラ チエコ ) 津村 智恵子 (平成24年4月1日)	-	-
-	-	-	-

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。

(例) 平成21年度に報告済の内容 → (21)

平成24年度に報告する内容 → (24)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等, 定員を定めている組織ごとに記入してください。  
 ・ 様式は, 平成22年度開設の博士後期課程の場合(平成24年度までの3年間)ですが, 開設年度・修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が2年以下の場合には欄を削除し, 4年以上の場合には, 欄を設けてください。)

(5) - ① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称(学位)	設置時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
看護学研究科 看護学専攻(修士課程)  修士(看護学)	2 年	5 人	10 人	基礎となる学部等  看護リハビリテーション学部 看護学科

- (注) ・ 「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。  
 ・ 定員を変更した場合は, 「備考」に変更前の人数, 変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。

(5) - ② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度		平成25年度		平均入学定員 超過率	備考
	平成24年度	平成25年度	春季入学	その他の学期		
A 入学定員	5 ( ) [ ]	- ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	人 ( ) [ ]	1.60 倍	-
志願者数	12 (12) [ ]	- ( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
受験者数	12 (12) [ ]	- ( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
合格者数	8 (8) [ ]	- ( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
B 入学者数	8 (8) [ ]	- ( ) [ ]	( ) [ ]	( ) [ ]		
入学定員超過率 B/A	1.60					

- (注) ・ 数字は, 平成24年5月1日現在の数字を記入してください。  
 ・ ( )内には, 社会人の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 「社会人」については, 認可申請書において貴学が定める社会人の定義に従って記入してください。  
 ・ [ ]内には, 留学生の状況について**内数**で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。  
 ・ 留学生については, 「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により, 我が国の大学(大学院を含む。), 短期大学, 高等専門学校, 専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。  
 ・ 短期交換留学生など, 定員内に含めていない学生については記入しないでください。  
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は, 春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は, その他の学期欄は「-」を記入してください。また, その他の学期に入学定員を設けている場合は, 備考欄にその人数を記入してください。  
 ・ 「入学定員超過率」については, **各年度の春季入学とその他を合計した入学定員, 入学者数で算出**してください。なお, 計算の際は**小数点以下第3位を切り捨て, 小数点第2位まで記入**してください。  
 ・ 「平均入学定員超過率」には, 開設年度から提出年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお, 計算の際は「**入学定員超過率**」と同様にしてください。

(5) - ③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学 年	平成24年度		平成25年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	[ - ] 8	[ - ] -	[ ]	[ ]	-
2年次	/		[ ]	[ ]	
3年次	/		/		
計	[ - ] 8		[ ]		

- (注) ・ 数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
  - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
  - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	入学者数(b)	退学者数(a)	退学者数(内訳)			主な退学理由	入学者数に 対する退学者数 の割合 (a/b)
			退学した年度	退学者数	退学者数の うち留学生数		
平成24年度 入学者	8人	0人	平成24年度	0人	0人	-	0%
			平成25年度	人	人		
平成25年度 入学者	人	0人	平成25年度	人	人		#DIV/0!%
合計	8人	0人					0%

(注)・数字は、平成24年5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各年度の入学者数については、該当年度当初に入学した人数を記入してください。(途中で退学者がいた場合でも、その退学者数を減らす必要はありません。)
- ・各年度の退学者数については、退学年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記入してください。
- ・「入学者数に対する退学者数の割合」は、【当該対象年度の入学者のうち、平成24年度5月1日現在までに退学した学生数の合計】を、【当該対象年度の入学者数】で除した割合(%)を記入してください。その際、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

## 2 授業科目の概要

<看護学研究科 看護学専攻>

### (1) 授業科目表

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通基礎科目	実践哲学	1・2前		2								
	看護研究方法論	1前	2			2						
	看護倫理	1後	2			2						
	看護理論	1・2前		2		1						
	看護教育学	1・2前		2		1						
	看護管理	1・2後		2		1						
	家族看護論	1・2前		1								
	司法看護論	未開講 1・2前		2		2						履修希望者がいなかったため(24)
	保健・看護情報学	1・2前		2		1						
	保健福祉政策論	1・2後		2								
	国際保健論	1・2後		2								
	コンサルテーション論	1・2後		2					1			
	ヘルスアセスメント	1・2後		2								
臨床薬理学	1・2後		2									
統計解析学	1前		1									
専門科目	看護実践学分野	看護実践学特講	1前		2		3	1				
		看護実践学演習Ⅰ	1前		2		2					
		看護実践学演習Ⅱ	1後		2		2	1				
		看護実践学特別研究	2通		8		3	1				
	看護学分野 女性健康	女性健康看護学特講	未開講 1前		2		4	1				履修希望者がいなかったため(24)
		女性健康看護学援助特講	未開講 1前		2		4	1				履修希望者がいなかったため(24)
		女性健康看護学演習	1後		2		4	1				
		女性健康看護学特別演習	2通		8		3	1				
	がん看護学分野	がん看護学特講	1前		2		2					
		がん病理看護学特講	1前		2		2					
		がん疾病看護学特講	1後		2		3					
		がん看護学援助特講	1前		2		2		1			
		がん看護学演習Ⅰ	1後		2		2		1			
がん看護学演習Ⅱ		1後		2		2		1				
がん看護学実習		2前		6		2		1				
がん看護学課題研究		2通		4		2						
がん看護学特別研究	2通		8		2							
老年看護学分野	老年看護学特講	1前		2		2						
	老年看護学援助特講	1前		2		2						
	老年看護学演習Ⅰ	1後		2		2		1				
	老年看護学演習Ⅱ	1後		2		2		1				
	老年看護学実習Ⅰ	1通		4		1		1				
	老年看護学実習Ⅱ	2前		4		1		1				
	老年看護学課題研究	2通		4		2						
	老年看護学特別研究	2通		8		2						
地域看護学分野	地域看護学特講	1前		2		3						
	地域看護学援助特講	1前		2		4						
	地域看護学演習Ⅰ	1後		2		3						
	地域看護学演習Ⅱ	1後		2		2						
	地域看護学実習	2前		6		2						
	地域看護学課題研究	2通		4		4						
	地域看護学特別研究	2通		8		4						

- (注) ・ 認可申請書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。  
 ・ 設置認可時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記載してください。その上で、前年度報告時(平成23年度に認可された大学等は設置認可時)より変更されているものは赤字見え消し修正し、「備考」に赤字で理由・変更年月等を記入してください。  
 なお、昨年度の報告書において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。  
 ・ 授業科目を追加又は内容を変更する場合で、専任教員が担当するため教員審査が必要なものについては、「専任教員採用等設置計画変更書」の審査年月等を「備考」に記入してください。(今後審査を受ける場合

には、「平成〇年〇月 提出予定」と記入してください。)

- ・ 「配当年次」について、設置認可申請時に開講時期を記入する必要がなかった学部等（平成19年度認可以前）についても、設置認可時の状況を黒字で記入してください。また、前年度報告時より修正があれば、赤字で見え直し修正をしてください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても記入してください。

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目 2	科目 45	科目 0	科目 47	科目 2	科目 45	科目 0	科目 47	-
				[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

(注) ・ 未開講である場合や、配当年次に関わらず、教育課程上の授業科目数を記入する（資格に関する課程など、別課程としている授業科目については算入する必要はありません。）とともに、[ ]内に、設置認可時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあった授業科目が配当年次に達しているにも関わらず，何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については，記入しないでください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1	「該当なし」					
2						
3						

- (注) ・ 設置認可時の計画にあり，何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお，理由については可能な限り具体的に記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」
--------

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = \boxed{0.00}$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て，小数点第2位までを記入してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校舎敷地	50,821㎡	0㎡	0㎡	50,821㎡			
	運動場用地	23,453㎡	0㎡	0㎡	23,453㎡			
	小 計	74,274㎡	0㎡	0㎡	74,274㎡			
	そ の 他	7,808㎡	0㎡	0㎡	7,808㎡			
	合 計	82,082㎡	0㎡	0㎡	82,082㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
		46,484㎡ (46,484㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	46,484㎡ (46,484㎡)			
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		
		62 室	14 室	54 室	6 室 (補助職員 2人)	4 室 (補助職員 1人)		
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数				
		看護学研究科 看護学専攻		22 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	
	看護学研究科	15,888 [1,581] (15,785 [1,665])	5,159 [992] (5,372 [1,078])	12,378 [11,536] (12,937 [12,030])	8,259 (8,289)	3,230 (3,216)	109 (124)	
	計	15,888 [1,581] (15,785 [1,665])	5,159 [992] (5,372 [1,078])	12,378 [11,536] (12,937 [12,030])	8,259 (8,289)	3,230 (3,216)	109 (124)	
(6) 図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数			
		6,177㎡		327席	860,000冊			
(7) 体 育 館		面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要				
		3,014㎡		テニスコート6面 アーチェリー場 和弓場 ゴルフ練習場				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	6,809千円	0千円	0千円
	共同研究費等	2,500千円	2,500千円	設備購入費	1,247千円 1,221千円	729千円	0千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		900千円	700千円	一千円	一千円	一千円	一千円	
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入等					

- (注) ・ 設置認可時の計画を、認可申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には平成24年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(24)」を「備考」に赤字で記入してください。  
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

#### 4 既設大学等の状況

大学の名称	甲南女子大学							備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 学 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過 率	開 設 年 度	所 在 地
	年	人	年次 人	人		倍		
大学院 看護学研究科 (修士課程)						1.60		兵庫県神戸市 東灘区森北町 6丁目2番23号
看護学専攻	2	5	—	10	修士(看護学)	1.60	平成 24年度	
大学院 人文科学総合研究科 (博士前期課程)						0.32		
言語・文学専攻	2	9	—	18	修士(文学)	0.16	平成 17年度	
心理・教育学専攻	2	13	—	26	修士(人間科学)	0.61	平成 17年度	
社会・文化環境学 専攻	2	9	—	18	修士(人間科学)	0.05	平成 17年度	
(博士後期課程)						0.22		
言語・文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.11	平成 17年度	
心理・教育学専攻	3	3	—	9	博士(人間科学)	0.22	平成 17年度	
社会・文化環境学 専攻	3	3	—	9	博士(人間科学)	0.33	平成 17年度	
文学部						1.22		
日本語日本文化 学科	4	80	—	320	学士(日本語 日本文化)	1.29	昭和 39年度	
英語文化学科	4	120	—	480	学士(英語文 化)	1.12	昭和 39年度	
多文化コミュニ ケーション学科	4	70	—	280	学士(学術)	1.26	平成 13年度	
メディア表現学科	4	60	—	240	学士(メデイ ア表現学)	1.26	平成 18年度	

大学の名称	甲南女子大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 学 員	編入学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
人間科学部						1.23			
心理学科	4	90	—	360	学士(心理学)	1.24	平成 13年度		
総合子ども学科	4	120	—	480	学士(教育学)	1.15	平成 18年度		
文化社会学科	4	80	—	320	学士(社会学)	1.29	平成 13年度		
生活環境学科	4	80	—	320	学士(生活環境学)	1.28	平成 13年度		
看護リハビリ テーション学部						1.16			
看護学科	4	85	2年次 5 3年次 5	365	学士(看護学)	1.17	平成 19年度		
理学療法学科	4	60	—	240	学士(理学療法学)	1.15	平成 19年度		

(注) ・ 本調査の対象となっている大学等の設置者(学校法人等)が、設置している全ての大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校(AC対象学部等を含む)について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、平成24年5月1日現在の状況を記入してください。

(専攻科に係るものについては、記入する必要はありません。)

- ・ 「定員超過率」には、標準修業年限に相当する期間における入学定員に対する入学者の割合の平均の小数点第2位まで(小数点第3位を切り捨て)を、学科(短期大学において専攻課程を設置している場合には、専攻課程)単位で記入してください。
- ・ 学生募集を停止している学部等がある場合、入学定員と収容定員は「—」とし、「備考」に「平成〇年より学生募集停止」と記入してください。

## 5 教員組織の状況

<看護学研究科 看護学専攻（修士課程）>

### （1）担当教員表

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
専	教授	津村 智恵子	平成24年4月	司法看護論 地域看護学特講 地域看護学援助特講 地域看護学演習Ⅰ 地域看護学演習Ⅱ 地域看護学実習 地域看護学課題研究 地域看護学特別研究						
専	教授	青山 ヒフミ	平成25年4月	看護倫理 看護管理 看護実践学特講 看護実践学演習Ⅱ 看護実践学特別研究						
兼任	講師	青山 ヒフミ	平成24年4月	看護倫理 看護管理 看護実践学特講 看護実践学演習Ⅱ						
専	教授	荒賀 直子	平成24年4月	地域看護学特講 地域看護学援助特講 地域看護学演習Ⅰ 地域看護学演習Ⅱ 地域看護学実習 地域看護学課題研究 地域看護学特別研究						
専	教授	池内 佳子	平成24年4月	女性健康看護学特講 女性健康看護学援助特講 女性健康看護学演習 女性健康看護学特別研究						
専	教授	池川 清子	平成24年4月	看護研究方法論 看護倫理 看護理論 看護実践学特講 看護実践学演習Ⅰ 看護実践学演習Ⅱ 看護実践学特別研究						
専	教授	臼井 キミカ	平成24年4月	看護研究方法論 老年看護学特講 老年看護学援助特講 老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 老年看護学課題研究 老年看護学特別研究						

認可時の計画				変更状況				備考	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月
専	教授	大西 和子	平成24年4月	がん看護学特講 がん病理看護学特講 がん疾病看護学特講 がん看護学援助特講 がん看護学演習Ⅰ がん看護学演習Ⅱ がん看護学実習 がん看護学課題研究 がん看護学特別研究					
専	教授	川口 優子	平成24年4月	地域看護学援助特講 地域看護学演習Ⅰ 地域看護学課題研究 地域看護学特別研究					
専	教授	沢村 敏郎	平成24年4月	がん疾病看護学特講					
専	教授	白田 久美子	平成24年4月	がん看護学特講 がん病理看護学特講 がん疾病看護学特講 がん看護学援助特講 がん看護学演習Ⅰ がん看護学演習Ⅱ がん看護学実習 がん看護学課題研究 がん看護学特別研究 女性健康看護学特講 女性健康看護学援助特講 女性健康看護学演習					
専	教授	玉木 敦子	平成24年4月	女性健康看護学特講 女性健康看護学援助特講 女性健康看護学演習 女性健康看護学特別研究					
専	教授	友田 尋子	平成24年4月	司法看護論 女性健康看護学特講 女性健康看護学援助特講 女性健康看護学演習 女性健康看護学特別研究					
専	教授	前川 幸子	平成24年4月	看護教育学 看護実践学特講 看護実践学演習Ⅰ 看護実践学特別研究					
専	教授	真嶋 由貴恵	平成25年4月	保健・看護情報学 地域看護学特講 地域看護学援助特講 地域看護学課題研究 地域看護学特別研究					
兼任	講師	真嶋 由貴恵	平成24年4月	保健・看護情報学 地域看護学特講 地域看護学援助特講					
専	教授	水谷 信子	平成24年4月	老年看護学特講 老年看護学援助特講 老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ 老年看護学課題研究 老年看護学特別研究					

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
専	准教授	吾妻 知美	平成24年4月	看護実践学特講 看護実践学演習Ⅱ 看護実践学特別研究						
専	准教授	川村 千恵子	平成24年4月	女性健康看護学特講 女性健康看護学援助特講 女性健康看護学演習 女性健康看護学特別研究						
専	講師	江口 秀子	平成24年4月	ヘルスアセスメント						
専	講師	兼田 美代	平成24年4月	老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ						
専	講師	田中 登美	平成24年4月	がん看護学援助特講 がん看護学演習Ⅰ がん看護学演習Ⅱ がん看護学実習						
兼任	教授	稲垣 由子	平成24年4月	司法看護論						
兼任	教授	辻下 守弘	平成24年4月	老年看護学演習Ⅰ						
兼任	教授	細辻 恵子	平成24年4月	女性健康看護学特講						
兼任	教授	松浦 尊磨	平成24年4月	保健福祉政策論 老年看護学特講						
兼任	講師	生野 照子	平成24年4月	女性健康看護学援助特講						
兼任	講師	池内 正憲	平成24年4月	がん疾病看護学特講						
兼任	講師	市来 百合子	平成24年4月	女性健康看護学演習						
兼任	講師	伊藤 亨	平成24年4月	がん疾病看護学特講						
兼任	講師	入江 安子	平成24年4月	家族看護論						
兼任	講師	加藤 治子	平成24年4月	司法看護論 女性健康看護学特講 女性健康看護学援助特講 女性健康看護学演習						
兼任	講師	川井 太加子	平成24年4月	保健福祉政策論						
兼任	講師	川端 健二	平成24年4月	がん病理看護学特講						

認可時の計画					変更状況					備考
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	
兼任	講師	菊池 誠	平成24年4月	統計解析学						
兼任	講師	紀平 知樹	平成24年4月	実践哲学 看護倫理						
兼任	講師	倉持 裕子	平成24年4月	司法看護論 コンサルテーション論						
兼任	講師	高 起良	平成24年4月	がん疾病看護学特講						
兼任	講師	郷良 淳子	平成24年4月	看護研究方法論						
兼任	講師	佐瀬 美恵子	平成24年4月	老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ						
兼任	講師	鈴木 けい子	平成24年4月	女性健康看護学演習						
兼任	講師	寶田 穂	平成24年4月	コンサルテーション論						
兼任	講師	立山 恭子	平成24年4月	国際保健論						
兼任	講師	田中 結華	平成24年4月	看護研究方法論						
兼任	講師	谷 聡	平成24年4月	がん疾病看護学特講						
兼任	講師	谷 向 仁	平成24年4月	老年看護学演習Ⅱ						
兼任	講師	筒井 真優美	平成24年4月	看護理論						
兼任	講師	鶴田 理恵	平成24年4月	がん看護学演習Ⅰ						
兼任	講師	長江 美代子	平成24年4月	司法看護論						
兼任	講師	西村 ユミ	平成24年4月	看護研究方法論						
兼任	講師	西山 みどり	平成24年4月	老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ						

認可時の計画				変更状況				備考		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)	就任予定年月	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)		就任予定年月	担当授業科目名
兼任	講師	二宮 佐和子	平成24年4月	老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ						
兼任	講師	橋田 亨	平成24年4月	臨床薬理学						
兼任	講師	長谷川 京子 (内橋 京子)	平成24年4月	司法看護論						
兼任	講師	藤本 美生	平成24年4月	がん看護学援助特講						
兼任	講師	村尾 眞一	平成24年4月	がん病理看護学特講						
兼任	講師	森川 英子	平成24年4月	地域看護学特講 地域看護学演習Ⅰ						
兼任	講師	森山 祐美	平成24年4月	老年看護学演習Ⅰ 老年看護学演習Ⅱ						
兼任	講師	山内 豊明	平成24年4月	ヘルスアセスメント						

(注) ・認可申請書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。

なお、当該設置に係る研究科等に所属しない教員であって、全学共通、学部共通などの授業科目を担当する教員組織に所属している場合は、〈〇〇研究科 〇〇専攻(〇〇課程)〉の箇所を「共通」とし、表を分けて作成してください。

- ・ 後任が決まっていない場合には、「後任未定」と記入してください。
- ・ 辞任者は「備考」に退職年月、氏名、理由を記入してください。
- ・ 年齢は、「**認可時の計画**」には**当該学部等の就任時における満年齢**を、「**変更状況**」には**平成24年5月1日現在の満年齢**を記入してください。
- ・ 教員を学年進行中に変更した又は変更する予定の場合(「新規採用」、「担当授業科目の変更」又は「昇格」をいう。)は、変更後の状況を記入するとともに、その理由、後任が決まっていない場合は、「変更状況」の「氏名」に「後任未定」と記入し、及び今後の採用計画を「備考」に記入してください。
- また、「専任教員採用等変更書(AC)」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」、変更書を提出予定の場合は「〇年〇月変更書提出予定」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「備考」に「(教員審査省略)」及びその変更の理由、変更年度( )書き等のみを記入してください。
- ・ 専任教員を変更する場合は、当該専門教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査(AC教員審査)を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。

## (2) 専任教員数

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
16	0	16	0	16	0	16	0	-
( 14 )	( 0 )	( 14 )	( 0 )	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	[ 0 ]	

(注) ・「認可時の計画」には、設置認可時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( )内に開設時の状況を記入し、「変更状況」には、平成24年5月1日現在(就任予定の者を含む)の状況を記入するとともに、[ ]内に設置認可時の計画との増減数を記入してください。(記入例：1名減の場合：△1)

(3) 専任教員辞任等の理由

番 号	職 位	専任教員氏名	辞任（就任辞退を含む）等の理由
1		「該当なし」	
2			
3			

(注) ・ 専任教員の辞任等の理由について、可能な限り具体的に記入してください。

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「該当なし」
--------

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

## 6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成23年10月)	(その他大学全般に関する事項) 1. 文学部日本語日本文化学科及びメディア表現学科の入学定員超過の是正に努めること。	日本語日本文化学科の平成24年度入学者の入学定員超過率は、1.15倍であり、平均入学定員超過率は、1.29倍となった。 またメディア表現学科の平成24年度入学者の入学定員超過率は、1.05倍であり、平均入学定員超過率は、1.26倍となった。 (24)	該当なし(24)
設置計画履行状況 調 査 時 (△△年△△月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (□□年□□月)			
設置計画履行状況 調 査 時 (●●年●●月)			

- (注) ・ 「認可時」には、当該大学等の設置認可時に付された留意事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る留意事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入し、報告年度を（ ）書きで付記してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該設置計画履行状況調査の結果、付された留意事項に対する履行状況等について、具体的に記入するとともに、その履行状況等を裏付ける資料があれば、添付してください。
  - ・ 定員管理に係る留意事項への履行状況は、指摘を受けた学科等についてのみ記入してください。
  - ・ 該当がない場合には、「該当なし」と記入してください。

## 7 その他全般的事項

### <看護学研究科 看護学専攻>

#### (1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況, 今後の見通しなど
	「該当なし」

- (注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。  
 ・ 認可申請書の「設置の趣旨等を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)

#### (2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD活動含む)

① 実施体制	
a 委員会の設置状況	
《組織構成》 平成24年度4月に本研究科が開設され、それと同時に開催された第1回看護学研究科委員会(2012/4/2)において、2名の教員がFD委員会委員として任命され発足している。 本学では、大学院教育にかかわる教員は概ね学部教育を担当している教員でもあることから、看護学研究科におけるFDは、学部における教員の資質の維持向上にむけた取り組みとしてのFD活動と連繋しながら、大学院教育に携わる教員の資質向上に向けたFD活動も併せて実施していく。	
b 委員会の開催状況(教員の参加状況含む)及び c 委員会の審議事項等	
【平成23年度における看護リハビリテーション学部及び看護学科学科FD】 以下に、昨年度(平成23年度)開催されたFD委員会の開催状況及び審議事項を記載する。 本学部FD委員会は、2学科7名の委員で構成されており、委員会はFD委員全員参加で開催されている。	
i) 平成23年度: 学部FD委員会会議	
月日	議題
平成23年5月30日(月) 【第1回学部FD会議】	①平成23年度各学科FD委員会の活動方針について ②平成23年度学部FD委員会の活動方針について
平成23年10月5日(水) 【第2回学部FD会議】	①コアカリキュラム研修会(学部FD研修会) ②準備・運営・役割に関する内容確認
平成23年10月25日(火) 【第3回学部FD会議】	①コアカリキュラム研修会(学部FD研修会) ②アンケート結果について
平成23年10月25日(火) 【第4回学部FD会議】	①平成24年度 学部FD委員会予算案について
平成23年10月27日(木) 【第5回学部FD会議】	①全学FD委員会 ②看護リハビリテーション学部3つのポリシーについて

ii) 平成23年度：学科FD委員会会議

月日	議題
平成23年4月26日(火) 【第1回学科FD会議】	①平成22年度活動経緯について ②平成23年度学科FD委員会の活動方針について
平成23年4月28日(木) 【第2回学科FD会議】	①学部FD研修会の開催：ポートフォリオについて ②学部FD研修会の開催：コアカリキュラムについて ③学科FD学習会の開催：Graduation Policy について
平成23年5月20日(金) 【第3回学科FD会議】	①学部FD研修会の検討(学部FD会議前の打ち合わせ) ②Graduation Policy, Admission Policy, Diploma Policy (以下、3つのポリシー) 勉強会内容について
平成23年5月25日(水) 【第4回学科FD会議】	①Graduation Policy など3つのポリシー ②モデル・コアカリキュラムの勉強会内容について
平成23年6月14日(火) 【第5回学科FD会議】	①学部FDの目的について 理学療法学科FD委員との調整
平成23年7月6日(水) 【第6回学科FD会議】	①コアカリキュラム研修会(学部FD研修会)開催についての検討
平成23年7月22日(金) 【第7回学科FD会議】	①コアカリキュラム研修会(学部FD研修会)についての検討 学部FD研修会にむけてのアンケート (コアカリキュラム研修会に対する要望、まとめ)
平成23年10月4日(火) 【第8回学科FD会議】	①コアカリキュラム研修会(学部FD研修会)についての検討 -台風による開催日時の変更とアンケート準備について ②全学FD委員会の報告
平成23年10月21日(金) 【第9回学科FD会議】	①全学FD委員会 看護リハビリテーション学部・学科、3つのポリシーについて
平成23年10月28日(金) 【第10回学科FD会議】	①平成24年度 学科FD委員会予算案について
平成24年1月25日(水) 【第11回学科FD会議】	①コアカリキュラム研修会(第2回目)についての検討 ②加藤信行教授 最終講義についての検討

iii) 学部FDの実施内容

月日	対象	内容
平成23年6月1日(水)	学科	【FD委員会-プレゼンテーション】 「Graduation Policy, Admission Policy, Diploma Policy について」 「FDの位置づけについて」 FD委員：前川幸子、川村千恵子、前久保恵、上村聡子、西村美登里
平成23年10月11日(火) 17:00~19:00 場所：1号館大会議室	学部	【講演】 「モデル・コアカリキュラムについて」 講師：大西弘高先生 所属：東京大学医学部教育国際協力研究センター
平成24年3月14日(水) 16:00~17:00 場所：1号館大会議室	学部	【講義】 「私の履歴と甲南女子大学」 講師：加藤信行教授 所属：甲南女子大学看護リハビリテーション学部

《FDの参加状況および参加した教員の意見》

昨年度開催したFDは、それぞれ7~8割の教員の参加があった。

また、カリキュラムを中心にした今年度のFD開催に関するテーマや内容について、参加した教員全員が「非常に良い~良い」と回答していた。具体的な意見としては、「カリキュラムだけでなく、教育全般についても考えさせられた」「もう少し自分が成長してから(学んでから)研修を受けていたら、さらに学びが深まるように思う」「評価に関する内容や、実施が難しい点などもう少し聞きたかった」など、各教員が自己の課題に照合しながらFD研修会の内容を解決策として生かしていこうとする姿勢が伺えた。

【平成24年度FD委員会の開催状況】

i) 平成24年度：学科FD委員会会議

月日	議題
平成24年4月19日(木) 【第1回 FD会議】	①平成23年度FD委員会活動の動向および評価について ②平成24年度学科FD委員会の活動方針について ・学部FDの活動の方向性 ・大学院FDの活動の方向性
平成24年5月1日(火) 【第2回 FD会議】	①平成24年度FD委員会活動の目的・目標について ②平成23年度学科FD委員会の活動内容について

② 実施状況

a 実施内容【平成24年度案】

《大学院FD目的》

教育・研究者並びに専門看護師養成のための、看護学専門分野の特徴、独自性を活かしたFD活動を実施し、評価・検討を行なう。以上から教育・研究的課題を明らかにし、具体的な改善策を立案することで教育・研究活動を充実させる。

《大学院FD目標》

- 看護学研究科の各分野に特徴的な研究方法論について交流する場を設け、学究的に議論を深める。
- 上記の分野に長けた研究者、実践者の招聘などを通して、教員の教育・研究能力、ひいては教員の研究指導能力の維持・向上をはかる。

b 方法 c 開催状況

月日	対象	内容
【第1回FD】 平成24年6月 開催予定	学科 大学院	【報告】 「大学院・学科における3つのポリシーとカリキュラムマップ」 発表：FD委員会
【第2回FD】 平成24年8月9日(木) 開催予定 場所：1号館大会議室	学部 大学院	【講演】 「アメリカにおけるナースプラクティショナーの教育と実践－高度専門職者の教育について考える－」 講師：神崎桂子 所属：(株)ミレニア 創傷ケア事業部 看護部長
【第3回FD】 平成24年9月 開催予定	学部 大学院	【講演】 「3つのポリシーとカリキュラムマップ」 講師：交渉中
【第4回FD】 平成25年2月 開催予定	看護学科 大学院	【シンポジウム】 「看護学専門領域における教員の研究活動」 講師：看護学科教員
【第5回FD】 平成25年2月 開催予定	看護学科 大学院	【報告発表】 「本学科における教育評価結果」 発表：教務委員会・FD委員会

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況【平成23年度の実施結果～今年度】

看護学教育において、鍵概念となる“Core Curriculum”について教員間で共有し、教育実践に役立てること、教員の教育力の向上のためには、今年度明確になった教育の指針となる3つのポリシーに根差した教育の実践と評価・修正というPDCAサイクルで進める必要がある。

そこで本学科においては、学部・学科における3つのポリシー（Graduation Policy, Admission Policy, Diploma Policy）を踏まえた“Curriculum Map”を作成した。教育評価の手立てとして独自に作成した“Curriculum Map”を用いることで、本学科の看護基礎教育における現状についての評価を行い、課題を明確にしていく方針である。そのためには今後、教育評価の理論・方法に関する理解を更に深めていくFDを開催し、各教員が担当する授業改善へと繋げていきたい。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況【平成24年度案】

a 実施の有無及び実施時期

大学院生に対する授業評価は、年度末に匿名性が保持できるよう配慮することで協力を得、共通科目、専門科目に対する評価を実施する。

## b 教員や学生への公開状況、方法等

大学院生に対する授業評価に関する公開は、評価結果としてまとめたものを大学院生に配布する。  
また、自己点検・自己評価の冊子、またはホームページ上における公開も検討する。  
この場合、考慮しなければならないことは、大学院生が少数（大学院入学者数8名）であることから、記載をした院生の特定がされやすいという点についてである。以上のリスクを回避し、大学院生と共に大学院における教育・研究の質の保証について取り組んでいく。

その他全学的なFD組織として「全学FD委員会」を設置している。（平成23年度までの名称は「全学FD会議」）  
全学FD会議の開催状況はつぎのとおり。

- ・平成23年6月13日（月） 全学FD会議開催
- ・平成23年7月6日（月） 全学FD会議開催
- ・平成23年7月20日（水） FD支援部学習支援チーム会議開催
- ・平成23年11月21日（月） 全学FD会議開催
- ・平成23年12月5日（月） 全学FD会議開催

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。  
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

## （3）自己点検・評価等に関する事項

### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

具体的根拠を踏まえ、評価・所見に関わる事項を次に時系列的に挙げる。

- ・本大学のホームページ「大学院、入試情報」に昨年11月以降、本研究科の教育理念、教育目的・教育目標、アドミッションポリシーなどを掲載している。
- ・本研究科の「学生募集要項」1頁の冒頭に、①本学の大学院が求める学生、②看護学研究科が受け入れる学生像、③看護学研究科のアドミッションポリシーを掲載しており、受験前論文担当教員面接時に受験生に①、②、③を担当教員が説明し、確認をしている。
- ・入学時（4月2日）に研究科委員長より「大学院学生要覧」の記載内容を踏まえて、本研究科の教育理念、教育目的・教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーについて入学生に説明している。
- ・教務担当教員及び論文担当教員等による履修申請指導（4月2、3日）を入学生に行っている。  
履修登録締め切り日（4月11日）後の調査で、入学生8名中CNS科目選択者が2名（がん看護分野、老年看護分野各1名）であったことを確認。
- ・入学生の主体的な学習姿勢を築くために、図書館利用及びPCを用いた文献検索手順オリエンテーションを入学早々（4月3日）に行っている。
- ・入学者全員が社会人入学生であり、仕事を持ちながらの受講であるが、土曜日1限～4限目を中心に夜間の6又は7限目開講科目の4月末現在、約1カ月間の状況は、全科目にわたり受講日の欠席者及び遅刻者は0名であった。

以上6つの状況から、設置の主旨・目的に合致した学生が入学してきており、学生達の意欲的かつ、主体的に学習している様子が窺える。

### ② 自己点検・評価報告書

#### 《組織構成》

平成24年度4月（本研究科開設直後）に開催された第1回看護学研究科委員会（2012/4/2）において、「自己点検・自己評価委員会」が発足した。委員会の構成員は、本研究科委員会で任命された教員2名である。

#### 《自己点検・評価における目的》

教育・研究・地域貢献及び運営管理における質の向上を図ることを目的とし、研究科開設と同時に自己点検・自己評価を実施し公表を行なう。

- 1) 本研究科における教育、研究、地域貢献及び研究科運営に関する活動を2年毎に評価し、後年度に向けての課題及び改善点を見出す。
- 2) 教育・研究者及び高度な看護実践職者の教育の重点化を図るための基礎的資料とする。
- 3) 評価結果を冊子としてまとめ、関連する実習施設及び教育機関へ配付することで本研究科の教育内容を周知する。

#### 《実施方法・評価基準・評価項目》

評価対象期間及び対象項目は、2年間にわたる「教育・研究・地域貢献・研究科運営」とし、これらに関する各種委員会資料及び分野単位の資料を参考に、現状、評価、課題についてまとめる。  
評価基準は、日本高等教育評価機構及び文部科学省大学評価研究委託（日本看護系大学協議会における学士課程評価基準）を参考に、当該委員会が中心となって継続的に検討していく。また、自己点検・自己評価が独善的になることを回避し、評価の透明性・信頼性を確保するために、外部評価の方法についても併せて検討を行っていく。

《評価項目》

- 1) 大学院研究科の理念、目的、目標
- 2) 研究科組織、事務組織
- 3) 管理・運営、財政内容
- 4) 学生の受け入れ状況・体制
- 5) 教育課程と教育内容・方法
- 6) 教育施設、設備の充実化
- 7) 学習者の特徴を踏まえた支援体制
- 8) 学位授与に関する認定体制
- 9) 教員の教育研究活動
- 10) F D / S D 活動
- 11) 社会・地域貢献
- 12) 自己点検・自己評価

a 公表（予定）時期

- ・平成26年6月公表予定

b 公表方法

- i) 刊行物による情報提供・発信（2年毎の発行）：「自己点検・自己評価報告書」を刊行し、関連する実習施設（約80箇所）及び高等教育機関（約200冊）への配付を行う。大学内においては、各学部への配布、希望する学生に対して配布を行う。  
また、非常勤講師、外来者が閲覧できるよう、本学部非常勤講師控室に開学当初からの「自己点検・自己評価報告書」の冊子を設置しておく。
- ii) ホームページによる情報の公開（予定）。

③ 認証評価を受ける計画

- ・平成27年度に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受けるべく、既に学内で検討を開始している。

（注）・ 設置認可時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（4）情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 ( 有 ・  無 )

b 公表時期（未公表の場合は予定時期） (平成24年5月中に、準備が完了次第速やかに公表予定)